

牧師室から (2020.8.9)

梅雨が明けた。夜晴れ間が見えたので、久々に牧師館の2階から望遠鏡で夜空を観た。今頃9時過ぎには南に木星、その少し東に土星が見える。都会の真ん中であった大阪で見た時よりも少しはっきり観測できた。木星の縞がかすかに見え、衛星も三つ四つ見えた。土星のリングもきれいだった。少し傾いているのがリアルで美しい。

ガリレオ・ガリレイ(イエス様の故郷ガリラヤに由来)は敬虔なクリスチャンだった。神様が造られた遠い宇宙はどうなっているのかと、自分の作った望遠鏡で恐る恐る覗き込んだことであろう。地動説についても自分自身の信仰との葛藤があったに違いない。敢えて教皇庁に喧嘩を売ったのではない。教会の教えから自然科学を切り離して考えようとしたのである。

望遠鏡の発明は人類にとって大きな出来事であった。近代科学のデータ解析や再現性、実証主義などはこれを機に発展していった。何の目的、制限もなくただむやみに科学が発展すればよいというのでなく、そこに倫理や方向性が必要であると思う。それを示し、提言するのが信仰者の役割ではないかと思っている。

(鈴木淳一牧師)